

〈専門領域名〉

脳神経外科

専門研修プログラム名	川崎医科大学脳神経外科専門研修プログラム																																												
連携施設群 (連携施設一覽)	連携施設:長久病院脳神経外科、岡山東部脳神経外科病院 関連施設:京都大学、徳島大学、福岡大学、倉敷中央病院、国立循環器病研究センター、横浜新都市脳神経外科病院、孝仁会釧路孝仁会記念病院																																												
募集定員数	各年次 3 名	研修期間	4年間																																										
専門研修プログラムの概略	1. 専門研修プログラムの内容(概略)																																												
	<p>1. 扱う疾患 脳卒中や頭部外傷などの救急疾患、脳腫瘍、てんかん、パーキンソン病、三叉神経痛、顔面けいれん、小児奇形、脊髄、脊椎、末梢神経などの予防から診断治療に至る、総合的かつ専門的知識を研修カリキュラムで習得する。</p> <p>2. 習得すべき内容 的確な検査を行い、正確な診断、手術を含めた適切な治療を行うとともに、必要に応じ他の専門医への転送の判断も的確に行える能力を養う。</p> <p>3. 研修期間と研修施設 以上に示す内容を基幹施設(川崎医科大学附属病院脳神経外科)、連携施設(2施設)、関連施設(7施設)で4年間の研修を行う(研修スケジュール参照)。なお基幹施設には最低6カ月の研修が必要である。また症例を補うために研修する関連施設には最長1年間の研修が可能である。</p>																																												
専門研修プログラムの概略	2. 当専門研修プログラムの研修スケジュール																																												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>パターン</th> <th>研修年次</th> <th>施設名</th> <th>主たる研修内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">A</td> <td>1</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、血管障害</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>徳島大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、血管障害</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">B</td> <td>1</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、血管障害</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>長久病院</td> <td>脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、血管障害</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">C</td> <td>1</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、血管障害</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>岡山東部脳神経外科病院、</td> <td>脳外科一般、脳血管障害、地域</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>徳島大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>川崎医科大学附属病院</td> <td>脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科</td> </tr> </tbody> </table>			パターン	研修年次	施設名	主たる研修内容	A	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害	2	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科	3	徳島大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患	4	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害	B	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害	2	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患	3	長久病院	脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科	4	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害	C	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害	2	岡山東部脳神経外科病院、	脳外科一般、脳血管障害、地域	3	徳島大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患	4	川崎医科大学附属病院
パターン	研修年次	施設名	主たる研修内容																																										
A	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害																																										
	2	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科																																										
	3	徳島大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患																																										
	4	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害																																										
B	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害																																										
	2	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患																																										
	3	長久病院	脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科																																										
	4	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害																																										
C	1	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、血管障害																																										
	2	岡山東部脳神経外科病院、	脳外科一般、脳血管障害、地域																																										
	3	徳島大学附属病院	脳外科一般、脳腫瘍、機能的疾患																																										
	4	川崎医科大学附属病院	脳外科一般、脊椎脊髄、小児脳神経外科																																										
専門医に必要な要件の概略	別紙参照 日本脳神経外科学会 Webサイト: http://jns.umin.ac.jp/																																												
プログラム統括責任者	ふりがな 氏名	うの まさあき 宇野 昌明	所属・ 役職	脳神経外科・ 診療部長(教授)																																									
プログラム担当者	ふりがな 氏名	うの まさあき 宇野 昌明	所属・ 役職	脳神経外科・ 診療部長(教授)																																									
問合せ先	Tel: (086)462-1111(代表) (内線)27350 E-mail: muno@med.kawasaki-m.ac.jp		(部署名)	脳神経外科学教室																																									

◆専門医に必要な要件（必要症例数と学会・論文数の条件）

A. 疾患の管理経験

以下の疾患群について、入院患者の管理経験を主治医ないしは担当医（受け持ち医として、少なくとも記載された症例数を実際に経験し指導医の指導監督を受ける。

① 脳腫瘍	30例	
うち良性脳腫瘍の管理		10例
うち悪性脳腫瘍の放射線・化学療法を含めた管理		10例
② 脳血管障害	40例	
うち虚血性脳血管障害の保存的治療ないし術前術後管理（血管内治療を含む）		10例
うち脳内出血患者の保存的治療ないし術前術後管理		10例
うちくも膜下出血患者の保存的治療ないし術前術後管理（血管内治療を含む）		10例
③ 外傷	20例	
頭部外傷患者の保存的治療ないし術前術後管理		20例
④ 脊椎・脊髄	10例	
脊椎・脊髄・末梢神経疾患の検査、保存的治療ないし術前術後管理		10例
⑤ 小児	5例	
15歳以下の小児脳神経外科疾患の検査、保存的治療ないし術前術後管理		5例
⑥ 機能	5例	
てんかん、不随運動、MVDなどの検査、保存的治療ないし術前術後管理		5例
⑦ その他（上記疾患群患者との重複もありえる）	10例	
終末期患者の管理		5例
リハビリ患者の管理		5例

B. 基本的手術手技の経験

（A項目症例との重複は認める）

穿頭術ないし脳室ドレナージ	術者として10例
シャント手術	術者として10例
開頭・閉頭手技	術者として10例、助手として30例
椎弓切除ないし形成手技	術者または助手として 3例
顕微鏡下手技（上記開閉頭と重複を認める）	40例
	うち術者として5例（必ずしも完璧を求めない）
	（クモ膜切開、腫瘍、血管の露出、血腫除去、ドリリング、吻合操作など）

C. 個別の手術経験（A、B項目症例との重複は認める）

① 術者または助手としての経験	
脳腫瘍手術	20例
脳動脈瘤・AVM手術	10例
脳内血腫除去術	5例（開頭、ステレオはどちらでも可）*
	*2015年度・2016年度研修開始専攻医は（開頭、「内視鏡」はどちらでも可）
バイパス・CEA	5例
外傷性頭蓋内血腫除去術*	5例（慢性硬膜下血腫を除く）
	*2015年度・2016年度研修開始専攻医は「頭部外傷の開頭術」

② 術者、助手、または見学としての経験

脊髄・脊椎・末梢神経手術	5例（*）
15歳以下の小児手術	3例（*）
MVDを除く機能系手術	3例（*）
脳動脈瘤塞栓術	3例（*）
ステント留置術	3例（*）
内視鏡手術	3例（*）

* 1回の学会認定講習会受講を1例経験として読み替えることも可能（2回まで可）であるが、実地に経験することが望ましい

以上の疾患管理経験、基本的手術手技経験、個々の手術経験を積み重ねること、並びに自己学習を通じて、研修項目を理解し身につける。

D. 専門医研修期間中に筆頭演者としての学会（全国規模学会）発表2回以上、筆頭著者として査読付論文採択受理1編以上（和文英文を問わない）が必要。